

タマネギ



日本で栽培されるようになったのは意外に遅く、明治時代に入ってからだといわれており、一般にタマネギと呼んでいる部分は根ではなく、葉の根元が養分を蓄えて丸く太った物で鱗茎（りんけい）と言われるものです。

作型

植え傷みさせると枯れやすいので、丁寧に植える。秋まきが最適で早まきすると、とう立ちしやすい。酸性土壌に弱いので、石灰を必ず施用する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき貯蔵						■			○		△		もみじ、さつき、ターボ レッドオニオン、ニューセブン

○：種まき △：植え付け ■：収穫

育苗

床土の準備

堆肥	4kg/m ²
セルカ（有機石灰）	100g
BMようりん	50g
野菜専用肥料	100g

- 本田1aにつき苗床5m²用意。播種量50mlで均一に播種する。
- 本葉2枚時に、込んでいるところを間引く。
- 生育に合わせ、400～500倍の液肥を灌注する。
- 植え付け苗：播種後55～60日頃
重さ4～6g

畑の準備・定植

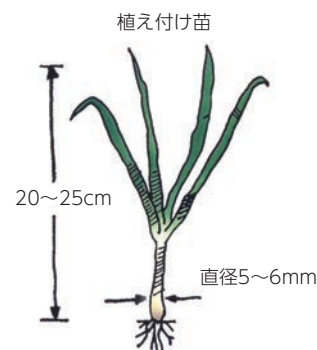
土づくり 1a当たり

堆肥	400kg
セルカ（有機石灰）	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	

元肥 1a当たり

発酵鶏糞 畝立時施用	30kg
---------------	------

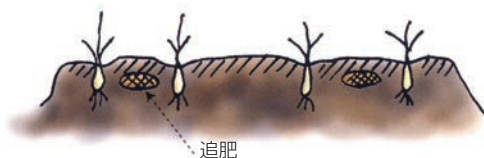
- 4条植え：畝幅135cm
条間24cm 株間12cm
- 苗取り前日に十分灌水して、できるだけ根を付けて苗を取る。
- 苗取りすれば、すぐ植え付けるようにする。
- 深植えにならないように注意！



追肥

- 1月下旬～2月上旬：追肥し、中耕を行う。
- 2月下旬～3月中旬：追肥し、中耕を行う。
（追肥の量：それぞれ野菜専用肥料5～7kg/a）
- 病気を防ぐため、3月下旬以降は追肥しない。

条間に追肥をして土入れをする



防除

病害虫名	薬剤防除
アブラムシ類 アザミウマ類	マラソン乳剤(2,000～3,000倍) 7日前まで6回以内
ハモグリバエ類	マラソン乳剤(1,000倍) 7日前まで6回以内
べと病 灰色かび病	プロポーズ顆粒水和剤(1,000倍) 7日前まで3回以内

収穫

- 全体の50～80%が倒伏したら行う。
- 3～5日晴天が続いた後に抜き取り、半日から1日畝上で天日干しを行い、風通しの良い日陰につるして貯蔵する。



5本ぐらいつつまとめて葉を縛る
風通しの良い場所へ吊す

コマツナ



コマツナは含有量で見ると全体的にはホウレンソウに若干及びませんが、ビタミン類、ミネラルなどどれをとっても非常に栄養価が高い緑黄色野菜で、カルシウムや鉄分においては、コマツナの方がホウレンソウよりもたくさん含んでいます。

作型

栽培時期により品種を変える。春収穫するものは、とう立ちしにくい品種を。防寒対策（トンネル、パスライトのべたがけ）をして栽培期間を長くする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
周年栽培													3～5月播：笑天楽天 6～8月播：夏楽天 9～10月播：極楽天 11～12月播：おそめ

○：種まき ■■：収穫

畑の準備・定植

土づくり 1a当たり	
堆肥	300kg
セルカ（有機石灰）	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 1a当たり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- 畝幅90cm
- 2条（条間20～30cm）

種まき

- 浅いまき溝を切り、むらなく種をまいて、軽く鎮圧し、覆土（1cm位）後、切りわらをする。（まき床が乾燥しないように）

間引き・追肥

- 本葉1～2枚の頃、3～4cm間隔に。
- 草丈7～8cmの頃、6～8cm間隔に。
- 追肥は生育が順調であれば必要ない。
- 葉色が薄い時は、野菜専用肥料（5kg/a）または油粕（10kg/a）を条間に施用し軽く中耕する。



防寒対策

- 秋まき（10～11月）など11～2月収穫は、不織布（パスライト）等を直接コマツナの上にかける。（風で飛ばないようにとめておく）
- ビニールや寒冷紗のトンネル栽培も良い。（日中高温にならないように注意）



収穫

- 草丈20～27cm位で収穫する。（間引きながら）収穫時葉柄が折れないように注意する。

防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る 害虫侵入防止のため被覆資材を用いる	モスピラン顆粒水和剤（4,000倍） 7日前まで1回